

宮崎県理学療法士(協)会
代議員立候補者

定 数 : 4 名

立候補者数 : 4 名



氏名 浜口 正博

都道府県士会 宮崎県

年齢 55

勤務先名称 三股病院



氏名 中田 洋輔

都道府県士会 宮崎県

年齢 54

勤務先名称 鶴田病院

協会・士会役員歴

平成元年度 ～ 平成7年度 宮崎県理学療法士会 成人福祉部長
 平成7年度 ～ 平成25年度 (社)宮崎県理学療法士会 理事(ブロック担当)
 平成21年度 ～ 平成24年度 (社)宮崎県理学療法士会 理事(副会長)
 平成7年度(第5回)・14年度(11回) (社)宮崎県理学療法学会長
 平成23年度 第46回日本理学療法学会 副大会長
 平成24年度 ～ (一社)宮崎県理学療法士会 理事(副会長)
 平成22年度 ～ 日本理学療法士協会 代議員

協会・士会役員歴

協会関連
 ・平成25年～26年 予防理学療法特別委員会 委員
 ・平成27年～28年 業務適正化対策本部 委員
 ・平成27年～29年 表彰委員会 委員
 士会役員歴
 ・昭和63年～平成6年、平成10年～14年 児湯ブロック部長
 ・平成15年～平成24年 教育管理系理学療法部会 部長
 ・平成20年～平成24年 宮崎県理学療法士会 理事
 ・平成25年～現在に至 宮崎県理学療法士会 会長

立候補の趣旨

これまでは宮崎県内におけるブロック活動の活性化を図ることを中心に活動してきましたが、若い会員が増えるにつれ協会や県士会の活動に対する求心性は薄れつつあるように感ずります。この先毎年1万人以上の理学療法士が誕生する状況で、現場では35歳以下の割合が大半を占める大変若い職能集団になり、それを取り巻く現状は雇用の減少と賃金水準の低下に対する不安や資質の低下といった問題に直面しています。今後は、協会や各都道府県士会との連携と当県士会組織強化の重要性は言うまでもなく、地域包括ケア事業の推進や管理者の人材育成等の喫緊する課題に対して、早急かつ柔軟に対応でき具体的な解決策を創造できる強いリーダーシップが求められています。当県士会は、一般社団法人を選択しましたが、まずはしっかりした組織作りと人材育成を行い、若い会員が一体感をもって地域社会に貢献できる職能団体であると実感できる組織になることが重要であると考えています。

立候補の趣旨

この度、宮崎県理学療法士会代議員に立候補致します、中田洋輔と申します。立候補を致す趣旨として以下に推進公約を表記し今後の士会運営に努力致します。

1. 急速に進行する地域包括ケアシステム構築に関連し理学療法士に期待される介護予防事業や地域ケア個別会議等の総合支援事業へのバランスよい対応の推進
2. 県、市町村、包括との継続した連携行動の維持強化
3. 士会員への地域総合支援事業の周知理解と協力の推進
4. 士会組織とブロック活動の立体化(市町村単位での対応策の検討)
5. ワーク・ライフ・バランスをライフサポートしていきける活動の推進
6. 士会員への情報共有化の促進(ICTの活用)

*1～6の推進公約を目標に真摯に取り組んでいきたいと考えております。よろしく御願い致します。



氏名 湯地 忠彦

都道府県士会 宮崎県

年齢 53

勤務先名称 藤元中央病院



氏名 吉田 敏朗

都道府県士会 宮崎県

年齢 54

勤務先名称 潤和会記念病院

協会・士会役員歴

平成5年～ 宮崎県理学療法士会 研修部長
平成10年～ 宮崎県理学療法士会 理事

協会・士会役員歴

平成9～平成12年度：宮崎県理学療法士会 財務部長
平成13～24年度：宮崎県理学療法士会 事務局長 兼 理事
平成25年～現在：(一社)宮崎県理学療法士会 理事 副会長
平成26年度～現在：(公社)日本理学療法士協会 代議員

立候補の趣旨

本年度は医療・介護・障がいを含めトリプル改定の年度を迎え2025年度問題を見据えた対策が明らかになってきます。我々にとっては厳しい改定であることは予測されますが、これまで取り組んできた対策がいかに機能するか、今後どのような対策を講じるべきか、情報を密にして会員間はもとより他職種とも連携をはかり事業を推し進めていきたいと思っております。今回の改定において、医療保険関連では理学療法のアウトカムがさらに求められております。各会員の質の向上にむけ、更に企画の充実を図りたいと考えております。介護保険関連では宮崎県でもいくつかの市町村において、地域包括ケアシステムの一環として地域ケア会議が開催され、理学療法士会が助言者として参加しており、我々への期待感は徐々に増えてきております。介護保険関連に従事する理学療法士も増えておりますが、まだまだ担い手が不足している部分もあり、多くの会員に興味を持って頂けるよう事業強化を図りたいと思っております。少子高齢化と言われ久しい中、人口減少問題も起こっております。一極集中から国が掲げる地域創生推進により、今後ますます都道府県や市町村単位での活動も重要となります。このような背景の中、理学療法士として何をすべきか、会員の皆様と共に考え魅力ある組織づくりができるよう努力して参りたいと思ひ立候補いたします。

立候補の趣旨

2025年度に於ける団塊世代を中心とした高齢化対策は、平成30年度の医療及び介護報酬改定で一つの方向性が示されると推測される。特に理学療法士に於ける質の担保と治療技術介入成果はより厳しい内容になると思われる。そのような折、これまでとは違う理学療法業界の変革として理学療法士の国政進出と継続した政策活動の充実が協会組織を中心に県士会との連携で現実し具現化されてきた。今後、地域包括ケアシステムの構築で健康増進や介護予防、生活期の場面で理学療法士の発言や行動力が強く問われる時期が迫っている。この状況を踏まえて地域行政や協会組織との連携は必須であり、県士会役員経験とこれまで2期務めた代議員実績から、県士会及び協会組織に貢献したく立候補します。